

1 被害防止計画の作成数、特徴等

作成数: 13(うち事業実施分は10)

ニホンザルによる被害がある地域では、生息頭数調査や箱ワナによる捕獲などの「個体数調整」、指導員の育成やモンキードッグの導入などの「被害防除」、緩衝帯を設置するなどの「生息環境整備」を組み合わせ効果的な取組を実施した。また、下北地域では生息域を包圍して対策を行うよう関係市町村の広域連携体制を構築する内容となっている。その他の地域ではそれぞれ市町村域で単独に取り組んでいる。ツキノワグマ、カラス、ノウサギ、カルガモ、アナグマに対しては、捕獲や追い払い、忌避剤などを組み合わせた内容となっている。

2 事業効果の発現状況

下北地域のニホンザルに関しては、モンキードッグが各市町村に整備されるなど、各地域において捕獲体制が整備され、広域連携における被害防止の効果が高まった。また、技術レベルの高いむつ市から他市町村への指導・支援を強化することで地域のリーダーとなる人材の育成が進んでいる。

その他の地域では、市町村域の取組となっているが、基礎的な体制を整備することで、被害防止や捕獲の強化、人材の育成が図られた。

3 被害防止計画の目標達成状況

今別町鳥獣被害防止対策協議会は、被害防止計画の対策初年目のH21年度にこれまで確認されていなかったニホンザル(他の地域から移動)の出没が急増したことにより農作物被害が拡大し、H22年度も同じ状況が続いたことから被害対策の中でも特にニホンザルの対策が緊急的に必要となった。対策の実施にあたり被害防止計画の基準が被害が拡大する前の数値では被害の実情に合っていないことから、H23年度に基準値をH22年度とした被害防止計画に変更しH23年の1年間で被害を50%低減する目標をたてて事業を実施した。その結果被害金額の達成率は70%、被害面積の達成率は101%となった。このことから、計画の目標をおおむね達成していると判断される。

弘前市鳥獣被害対策協議会は取り組みの結果、被害面積は目標を達成していると評価できる。しかし、被害金額はノウサギの増加に捕獲が間に合わず目標達成に至っていない。

下北半島のニホンザル被害対策市町村等連絡会議は、広域連携により事業に取り組んだ結果、1年間で被害金額(約3割の減)・面積(約4割減)が減少したことは評価できる。しかし、予想以上の頭数増加に伴う群れの分裂や遊動域の拡大により目標達成には至っていない。

4 各事業実施地区における被害防止計画の達成状況

事業実施主体名 (協議会名)	対象地域	実施年度	対象鳥獣	事業内容	事業量	管理主体	供用開始	利用率・稼働率	事業効果	被害防止計画の目標と実績						事業実施主体の評価	都道府県の評価
										被害金額			被害面積				
										目標値	実績値	達成率	目標値	実績値	達成率		
今別町鳥獣被害防止対策協議会	今別町	H23	ニホンザル、カルガモ、ノウサギ、アナグマ	・箱わな導入 ・電動ガン導入 ・緩衝帯設置 ・花火による追い払い ・銃器等による追い払い実証 ・生息頭数調査	・箱わな1基 ・電動ガン7丁 ・緩衝帯設置1カ所 ・花火による追い払い64千発 ・銃器等による追い払い実証4地区 ・生息頭数調査4地区	今別町鳥獣被害防止対策協議会			ニホンザルの被害対策の箱わなによる捕獲や、電動ガン、花火等による追い払いは効果があるが、慣れるにしたがい、追い払い効果が薄くなることが確認できた。また銃器による追い払いは効果が見られた。緩衝帯については、被害防止に効果が見られ出没回数の減少が確認できた。しかし、被害は緩衝帯が整備されていない地区へ移動していることが確認できた。	ニホンザル	ニホンザル	ニホンザル				被害防止計画の対策初年目のH21年度にこれまで確認されていなかったニホンザル(他地域から移動してきた)の出没が急増したことにより農作物被害が拡大した。当初はH21年度だけの被害と思われるが、H22年度も前年度と同様に出没が多く農作物被害が多い状況が続いたことから、被害防止対策の中でも特にニホンザルの対策を中心に実施することが緊急的に必要となった。対策の実施にあたり、被害防止計画の基準値が被害が拡大する前の数値では被害の実情にあっていないことから、H23年度に被害の実情にあった基準値をH22年度とした被害防止計画に変更し1年間で被害を50%低減する目標をたてて事業を実施した。その結果、達成率は被害金額で70%とやや低いものの被害面積で101%とほぼ目標を達成できた。ニホンザルの個体数が増加し、農作物被害は緩衝帯が整備されていない地区で増加している。追い払いは効果があるが、慣れるにしたがい効果が薄くなることが確認されたため、今後も箱わな等による捕獲、銃器等による追い払い、緩衝帯の設置など総合的な活動が必要である。	被害防止計画の期間中にニホンザルの出没が増加し農作物被害が拡大したため、地域の被害の状況を反映させた変更後の被害防止計画の数値で達成率を算出し評価するのは妥当であると認められる。また、ニホンザルの被害を軽減するために被害防止計画変更後1年間強化した計画に取り組んだ結果、全体の達成率は被害金額で70%とやや低いものの、被害面積は101%とおむね目標を達成している。ニホンザルについては、今後も緩衝帯の設置や、地域をまきこんだ追い払い等の体制づくりに取り組むことが必要である。
										8.3万円	193.3万円	-5127%					
										カルガモ	カルガモ	カルガモ					
										29.7万円	5.3万円	292%					
										ノウサギ	ノウサギ	ノウサギ					
										22.9万円	0	333%					
										アナグマ	アナグマ	アナグマ					
										20.7万円	0	333%					
										合計	合計	合計(A)					
										81.5万円	198.6万円	-232%					
変更後の被害防止計画の目標と実績																	
目標値	実績値	達成率	目標値	実績値	達成率												
ニホンザル	ニホンザル	ニホンザル	ニホンザル	ニホンザル	ニホンザル												
105.1万円	193.3万円	16%	0.80ha	1.39ha	34%												
カルガモ	カルガモ	カルガモ	カルガモ	カルガモ	カルガモ												
4.2万円	5.3万円	74%	0.10ha	0.10ha	100%												
ノウサギ	ノウサギ	ノウサギ	ノウサギ	ノウサギ	ノウサギ												
29.5万円	0	200%	0.45ha	0	200%												
アナグマ	アナグマ	アナグマ	アナグマ	アナグマ	アナグマ												
14.5万円	0	200%	0.15ha	0	200%												
合計	合計	合計(B)	合計	合計	合計(B)												
153.3万円	198.6万円	70%	1.50ha	1.49ha	101%												

事業実施主体名 (協議会名)	対象地域	実施年度	対象鳥獣	事業内容	事業量	管理主体	供用開始	利用率・稼働率	事業効果	被害防止計画の目標と実績						事業実施主体の評価	都道府県の評価
										被害金額			被害面積				
										目標値	実績値	達成率	目標値	実績値	達成率		
弘前市鳥獣被害防止対策協議会	弘前市	H20～23年度	ニホンザル、ツキノワグマ、カラス、カルガモ、ノウサギ、	・H20～22猿害防止用電気柵設置 ・H20電動ガン導入 ・H20サル講演会開催 ・H21・H22パチンコ、箱わな、忌避剤、花火導入 ・H23電気柵の導入、箱わな、忌避剤、花火導入	・電気柵H20延長750m、H21延長2km、H22延長2km、H23 1800m ・電動ガン8丁 ・H20サル講演会48名出席、H23アライグマ講演会62名出席 ・パチンコH21延べ10台、H22延べ40台 ・箱わなH21延べ4基、H22延べ16基、H23 延べ12基 ・H23 花火2470本、爆竹50箱、忌避剤20本	弘前市鳥獣被害防止対策協議会	H20.9～H21.8～H22.9～H23.7～	100%	猿害防止用電気柵の効果は大きく、設置した圃場では被害が大きく減少した。 その他対策物品(忌避剤)は効果はあるものの、人手が必要だったり、効果が薄れたりと一時的・限定的である。 銃器・箱わなによる捕獲も継続して実施している。	ニホンザル 1,030万円 ツキノワグマ 880万円 カラス 910万円 カルガモ 70万円 ノウサギ 700万円 合計 3,590万円	ニホンザル 1,001万円 ツキノワグマ 737万円 カラス 1,099万円 カルガモ 52万円 ノウサギ 1,275万円 合計 4,164万円	ニホンザル 107% 138% 52% 160% -90% 63%	ニホンザル 3.3ha ツキノワグマ 2.8ha カラス 3.0ha カルガモ 3.6ha ノウサギ 2.3ha 合計 15.0ha	ニホンザル 2.9ha ツキノワグマ 2.1ha カラス 3.5ha カルガモ 2.3ha ノウサギ 3.7ha 合計 14.5ha	ニホンザル 129% 158% 58% 187% -56% 108%	主要鳥獣のニホンザル・ツキノワグマは、対策を地域ぐるみで実施することにより、体制づくりができ、追い払い等の効果も上がっているため、今後も継続して実施していきたい。 ただし、ニホンザル・カラス等は個体数が増加しており、今後も被害が発生すると推測されるため、継続して電気柵等の導入が必要である。 また、捕獲従事者が高齢化等により減少傾向にあるため、育成・確保のための対策を継続する必要がある。	地域の主要獣種のニホンザルやツキノワグマは、被害金額、被害面積ともに目標を達成している。また、追い払い等の効果も上がっており評価できる。 しかし、カラスや、ノウサギについては、捕獲等が計画的に行われているものの被害が多いため全体として目標達成に至らなかった。 カラスとノウサギについては、引き続き近隣町村と連携した体制づくりに取り組むことが必要である。
下北半島のニホンザル被害対策市町村等連絡会議	むつ市、大間町、風間浦村、佐井村	H20～23年度	ニホンザル	・H20～23檻設置による捕獲 ・H20～23生息調査 ・H22～23犬を活用した追い払い、緩衝帯整備等	・檻導入H20延べ6基、H21延べ2基、H22延べ5基、H23延べ6基 ・H20-23下北全域調査 ・犬導入H22延べ1頭、H23延べ3頭 ・緩衝帯整備H22延べ320㎡、H23延べ140㎡	下北半島のニホンザル被害対策市町村等連絡会議			犬を活用した追い払いについては、平成22年度に導入した1頭に加え平成23年度に3頭を導入し、むつ市大畑地区、大間町、風間浦村、佐井村の4地区に1頭ずつ配置、むつ市独自で導入した2頭の計6頭で追い上げを行い、その効果がみられている。 檻導入に伴い各地域で捕獲体制が整備でき、捕獲の効果を上げているが、ニホンザルの増加に追いつかない状況である。	ニホンザル 300万円	ニホンザル 371万円	ニホンザル 54%	ニホンザル 3.50ha	ニホンザル 5.28ha	ニホンザル 33%	モンキードッグが各市町村に整備されるとともに人材の育成も進み、効果が実証され、これまでの被害発生地域では確実に被害を減少させることができた。一方、ニホンザルの頭数増加により群れが拡大・分裂し、遊動域が新たな地域に広がったことにより、追い払い活動が十分にできなかった地域で被害が発生した。	ニホンザルの頭数の増加、遊動域の拡大、群れの分裂により新たに被害地が増加したことにより被害金額、被害面積ともに目標に至っていない。 捕獲技術等レベルの高いむつ市が、他町村への技術指導を強化することで、各地域にリーダーとなる人材育成を図っているほか、各市町村に配置されたモンキードッグによる一斉追い上げを実施するなど、新たに広域連携を進める地域のモデルケースとなっていること、前年に比べ被害面積は4割、被害金額は3割減少となったことなどは評価できる。 今後、新たな被害地域を含めた地域での追い払い活動に向けた体制強化が必要である。

注：被害金額及び被害面積の目標欄については対象鳥獣及び目標値を記し、これに合わせて他の欄も記載する。

5 第三者の意見

<p>コメント</p> <p>今別町鳥獣被害防止対策協議会(鳥獣保護員 平山 辰五郎) 平成22年度の調査結果を基準年として、平成23年度を目標とした1年間の被害低減率50%と強化した計画で事業を実施した結果、被害金額・被害金額ともに、単年度ではあるが目標をほぼ達成しており評価できる。現状では被害の大きいサルの被害防止を、減少させるには、銃器等による個体数の調整が一番効果が期待できると思われるので、銃器等による捕獲の担い手の育成も検討していただきたい。</p> <p>弘前市鳥獣被害防止対策協議会(獣医師及び鳥獣保護員 三上 幹雄) 捕獲従事者(める猟友会員)が減少傾向にあるため、引き続き「担い手育成事業」を実施してもらいたい。これまでの計6名の増加だけでは不十分であり、更なる増員を図る必要がある。また、農家以外にも気軽に追い払いに参加できる体制づくりが肝要と考える。さらに、現在サルの生息数が増加しており、生息域も拡大傾向にあるため、電気柵を継続して設置することが被害を防ぐためにも重要である。より効果的な追い払い物品の試験・導入を行うなど、一層対策に取り組んでいただきたい。近年急増しているアライグマに対しても、箱わなの導入など、対策をお願いしたい。</p> <p>下北半島のニホンザル被害対策市町村等連絡会議(獣医師 柴田 憲明) 保護管理専門員並びに実施隊の増強による監視・捕獲体制の強化充実とモンキードッグ導入により被害防止効果が現れており評価される。ただ、体制整備を上回る規模での頭数増と群れの分裂がさらに進んでいることにより、電気柵未設置区域への被害の拡大が進んでおり、今後もこの傾向は避けられ無いものと見られ、遊動域が広がることでのさらなる被害増大が考えられる。このことは、電気柵未設置区域への設置推進と維持監理の徹底、老朽化した電気柵の更新、各地区への導入が図られたモンキードッグの増強と追い払い人員のさらなる増員と周辺環境の整備検討の推進など、より強力な効果的な対策を進める必要がある。</p>
